

ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp



25



やまむろ動物病院長
(富山市中川原)
山田 武文

暑い日が続いていますが、皆さん、動物の暑さ対策はしっかり行っていますか？

人の熱中症はお年寄りや子どもに多い印象がありますが、動物では年齢関係なく見られます。気温や湿度が高い状況で体内の熱を十分に放出できず、体温が過度に上昇することで起こります。直腸温が41度を超えると細胞が修復できないレベルの損傷を受け、42度を超えるとタンパク質が壊れ、全身の臓器にさまざまな機能不全が生じます。具体的な症状としては、呼吸が異常に速い、立てない、意識がない、失禁するなどが挙げられます。体温が高いほ

犬・猫の熱中症対策



熱中症の症状が見られる犬。発症しないよう普段から対策を取りたい

クーラー付けたままに

ど、その状態が長く続くほど救命は難しくなり、病院で最善の治療を行っても残念ながら助からないケースも多く見られます。パグ、フレンチブルドッグ、シーズーなどの鼻が短い犬種は特に熱中症になりやすいですが、それ以外でも、太っている、毛の量が多い、興奮しやすい、持病がある

などの子は要注意です。猫は涼しい場所を見つけないのが上手なので熱中症になりやすいと言われますが、もちろんならないわけではありません。熱中症にさせないために重要な事は、まずは部屋の温度を適正に保つことです。犬、猫は人と違ってほとんど汗をかかないので、窓

下のドッグランも大変危険です。外でしか排せつができない子のお散歩は、涼しい時間帯のごく短いものとどめてください。普段屋外で生活している犬でも、暑さが厳しい日は涼しい屋内に避難させてあげてください。もし熱中症になっていると疑われるときは、すぐに体の冷却を始めてください。

を開ける、扇風機を付けるだけでは、猛烈な暑さを乗り切れることは難しいです。お薦めの方法は、28度くらいで良いので、毎日24時間クーラーを付けたままにしておくことです。他には水をたっぷり置いておくこと、暑い時間帯は外に出さないことも重要です。炎天

を下げます。そして全身を水でぬらしながら扇風機を当て、同時に掛かりつけの病院に連絡して指示を仰いでください。とにかく熱中症は、なってしまうまではなく、そうならないようにすることが最も大事です。朝方涼しいからといってクーラーを付けずに留守番をさせることは、一生の後悔につながる可能性があります。くれぐれもご用心ください。